

令和七年（2025）第40回大会（通算70回）
全国漢文教育学会大会（於國學院大學）

教職を目指す学生に興味・関心をもたせる漢文の授業の試み

―『論語』の言葉と日本近代文学との比較を通して―

大東文化大学 渡辺 恭子

1 目的

本研究は、教職を目指す学生に対し、漢文教材を「比較を通じた学びの手法」として提示することで、単なる古典の読解に留まらず、授業設計に活かす可能性を探るものである。具体的には『論語』の言葉と日本の近代文学とを比較する授業のサンプルを示し、それに触発された学生が、自ら比較対象を見つけ、主体的に魅力的な漢文の授業設計を行えるようになることを目的とする。

2 発表の流れ

① 学生の事前アンケート結果の紹介

（大東文化大学「教科教育法（国語）」履修者を対象とした調査）

② 魅力ある授業が高校生の関心を高めること

③ 『論語』の章句と森鷗外「最後の一句」との比較

④ 指導方法の可能性と教材の広がり

3 比較対象の作品

A 『論語』子路篇

葉公語孔子	曰「吾党有直躬者。其父攘羊而子証之。」	孔子曰「吾党	之直者異於	是。父為子隱、	子為父隱。直	在其中矣。」
-------	---------------------	--------	-------	---------	--------	--------

B 森鷗外「最後の一句」について

森鷗外が大正時代に発表した短編小説。

物語の舞台は江戸時代の大阪。主人公の十六歳の長女・いちは、父の罪を前に、妹や弟たちとともに命を懸けた行動をとる。

父は誠実に商いを続けていたが、大きな損失を負った直後、目の前に並べられた現金に心が揺らぎ、思わずそれを受け取ってしまう。その結果、不正が発覚し、投獄の末に死罪を言い渡される。いちは奉行所に赴き、「父を助け、その代わりに私たち子どもを処刑してください」と懇願する。